

台風などが発生しやすい季節

命を救うキーワードは「自助」

9月1日は「防災の日」。この時期は台風や発達した雨雲の影響で大雨が降りやすく、全国各地で被害が発生しています。災害時に危険を察知して身を守ることができるのは、一人一人の「自助」。すなわちあなた自身の力です。ここでは台風などの災害に備え、被害を最小限に抑えるために役立つ情報を紹介します。

問い合わせは 危機管理室 ☎898-5935



表1 防災気象情報のタイミングの例



台風の接近前の備え

気象情報をチェックする

テレビやラジオ、新聞、インターネットでよく見る注意報・警報や土砂災害警戒情報など。これらの情報の意味を正確に捉えて、日頃からこまめにチェックしておくことが大切です。主な防災気象情報と発表のタイミングは表1のとおりです。詳しくは前橋地方気象台（☎234-5022）へ問い合わせるか、気象庁ホームページ（<http://www.jma.go.jp/>）をご覧ください。

日頃から備えは欠かせない

9月表2の非常食や飲料水、懐中電灯、ラジオ、予備の電池などを日頃から備えておくことが大切です。そろえた物はリュックサックなどにまとめておくと、すぐに持ち出せます。

自宅の水害危険度を知る

自宅周辺などが水害時にどれだけ危険になるかを事前にチェックしておきましょう。「前橋市洪水ハザードマップ」では、利根川や広瀬川、桃ノ木川、赤城白川、荒砥川が大

雨によって氾濫した場合の想定浸水の程度や、自宅近くの危険場所と避難場所を確認することができず。利根川は200年に1度、他の河川は100年に1度の大雨を想定しています。マップは市役所危機管理室や主な市有施設に用意してありますので、活用してください。

台風接近時の対応

大雨になりそうなとき

台風が接近してきたら、できるだけ外出は控えるように。自宅周辺が浸水の恐れがあるときは、家財道具や生活用品を2階などの高い所へ移しておいてください。もし出掛けている場合は、河川やがけ崩れが起こりやすい場所に絶対に近寄らないこと。また、家族の居場所と緊急時の連絡方法を確認し合いましう。

避難するとき

避難勧告を受けたら、危険を感じなくても速やかに避難してください。高齢者や体の不自由な人、病人などがある家庭は、特に早めの行動が必要です。勧告がなくても危険と判断したら自主的に避難してください。

表2 備えておきましょう

- 非常用備蓄品
 - 簡単な調理で食べられる食料
 - 飲料水
 - 卓上こんろ・燃料
 - やかん
 - 毛布
 - 使い捨てカイロ
 - 粉ミルク・オムツなど
- 非常用持ち出し品
 - 現金(小銭が便利)などの貴重品
 - ラジオ
 - 懐中電灯・予備の電池
 - 救急用品・常備薬
 - 衣類・タオル
 - ヘルメット・軍手・雨具
 - ライター・マッチ
 - 洗面具・生理用品など

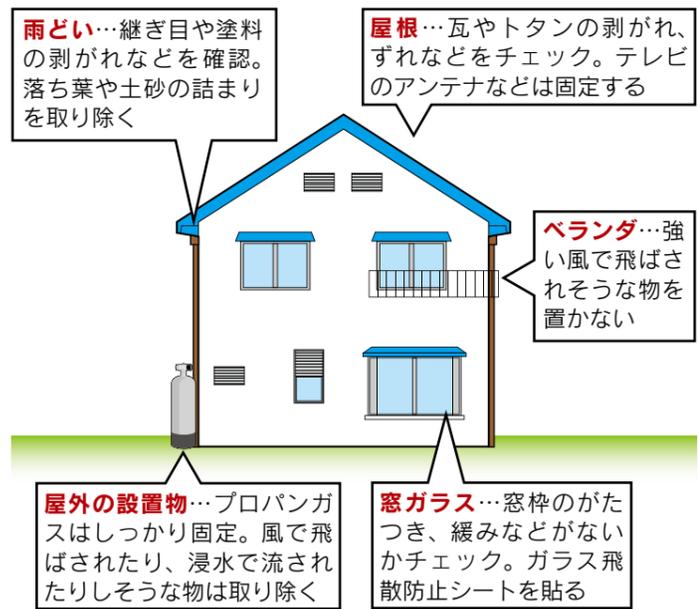
※各家庭の家族構成に応じて用意してください。



■自宅などの安全対策を行う
自宅の状態をあなた自身がチェックしておくことが重要です。特に重要な項目は図1のとおり。日頃から各所を確認し、対処しておきましょう。

避難するときは火の始末と戸締まりを忘れずに。動きやすい服装と手袋を着用し、丈夫な運動靴を履きましょう。できるだけ単独行動は避け、地域のひとと協力し合って避難してください。

図1 自宅などの安全対策



市役所 ☎371-8601 大手町二丁目12-1 ☎224-1111

